

番号	15	平成27年度公共事業事後評価調査			担当課名[農地整備課]		
事業名	畑地帯総合整備事業（担い手育成型）			事業主体	静岡県		
箇所名	みっかびちゅうぶ 三ヶ日中部			市町名	浜松市		
事業概要							
受益面積	527.8ha		採択年度	昭和57年度	完了年度	当初 実績	
						平成20年度 平成21年度	
事業費	前回	8,243百万円（H19再評価時）		実績	8,166百万円		
事業量	畑地かんがい 面積 525ha（用水路17,739m、揚水機場19箇所） 排水路 延長 8,443m（排水路 9路線、集水路 11路線） 農道 延長 15,720m（幅員4.0～5.0m 12路線）						
事業の目的・必要性							
<p>本地区は浜名湖北部の旧三ヶ日町に位置し、古くより「三ヶ日みかん」の産地である。しかし、傾斜園地が多く農道は狭小で、通作やみかんの搬出に大きな労力を要していた。更に用水源に乏しく、かんがいや防除に必要な用水は、天水等に頼っていた。</p> <p>本事業では、畑地かんがいや農道等を整備し、農産物の品質や農業生産効率を向上させることにより、担い手農家への農地集積を図り、将来を担う経営体（担い手）を育成することを目的とする。</p>							
事業の効果等							
費用対効果 分析結果	前回 再評価時 (H19)	B/C	総費用	161.20 億円 (事業費：82.43 億円 関連事業費：78.77 億円)	総便益	166.30 億円 (農業生産向上効果：76.48 億円 農業経営向上効果：74.19 億円 地域資源保全・向上効果：15.63 億円)	基準年 平成19年
	事後	B/C	総費用	186.02 億円 (事業費：91.23 億円 再整備費等：22.63 億円 関連事業費：72.16 億円)	総便益	235.95 億円 (食料安定供給確保効果：218.25 億円 農業持続的発展効果：17.70 億円)	基準年 平成26年
<p>1)費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> 土地改良事業の費用対効果分析マニュアルの改正による評価期間、便益等分析手法の変更に伴い総費用、総便益が増加した。 <p>2)事業効果の発現状況</p> <p><食料の安定供給の確保に関する効果></p> <ul style="list-style-type: none"> 畑地かんがいを計画的に行うことにより、農作物の収量が増え、品質向上に寄与した。 ※作物生産効果：（単収）事業前2,124kg/10a⇒事業後2,443kg/10a（あおしま温州） ※品質向上効果：（単価）事業前211千円/t⇒事業後232千円/t（あおしま温州） スプリンクラー等により、労働時間が短縮した。 ※営農経費節減効果：（労働時間）事業前1,977時間/ha⇒事業後1,539時間/ha 農道整備により、通作や農産物輸送にかかる経費が縮減した。 ※走行経費節減効果：（走行経費）事業前186,249千円⇒事業後34,239千円 <p><農業の持続的発展に関する効果></p> <ul style="list-style-type: none"> 排水路整備により農地や農道等の被害を防止した。 ※災害防止効果：（被害額）事業前74,783千円⇒事業後0円 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> 農地集積の促進と農業経営の規模拡大等により、強固な柑橘産地としての基盤が形成された。 							
事業により整備された施設の管理状況							
<ul style="list-style-type: none"> 農道及び排水路は浜松市が、畑地かんがいは浜名湖北部用水土地改良区が適正に管理している。 日常の維持管理や簡単な補修・修繕については、ふじのくに美農里プロジェクト活動組織である「三ヶ日中部地区農地・水・環境保全組織」が適正に実施している。 ※農道点検・草刈：年4回、排水路点検・泥上げ：年2回、用水施設点検・草刈：年2回 							

事業実施による環境の変化

- ・畑地かんがいの整備により、みかんの収量が15%程度増加するとともに、「ミカエース」など糖度の高い付加価値を付けたみかんの生産が可能となっている。更に、近年はきめ細かな水管理が可能な「マルチドリップかんがい」（マルチシートによる遮水と点滴かんがい）の導入が進められ、さらなる品質の向上を目指している。
- ・本事業の実施により、経営の効率化が図られた結果、ビジネス経営体の育成及び作業受託組合の設立が図られた。（旧三ヶ日町内でビジネス経営体3、作業受託組合3）
 - * ビジネス経営体：経営継承される一定規模以上（販売額5,000万円以上）の経営体（法人）
- ・本事業の整備により、地域全域に道路網が形成され、集落内及び集落間の交通の利便性が向上し、地域全体の生活環境の向上が図られた。
- ・排水路整備により、農地だけでなく、集落の洪水被害や土砂災害が軽減された。
- ・「三ヶ日中部地区農地・水・環境保全組織」が設立され、地域内の連携がより強化された。本組織は、農道や畑地かんがいの管理だけでなく、遊休農地にコスモスをまくなど、美しい景観の保全にも取り組んでいる。

社会経済情勢等の変化

- (1) 地域社会の動向
- ・旧三ヶ日町内を東名高速道路と新東名高速道路の連絡道が通過しており、三ヶ日ICを活用して大都市圏との交流推進（みかん狩り等）や、特産品、観光施設を活用した地域振興が行われている。
- (2) 地域経済の動向
- ・旧三ヶ日町生産者の多くが出荷する出荷組合においては、光センサー選果システムによって厳しい選別が行われ、高品質のみかんは京浜や中京市場を中心に流通し、他産地と比べ高水準の販売価格となっている。（九州地方のA柑橘組合に比べ東京市場の平成24年度平均価格が1.4倍）
 - ・農商工連携により、6次産業化に取り組み、新たな商品開発と販路の拡大を図っている。ふじのくに新商品セレクションを受賞したピュアレスト蜜柑と氷美柑、果汁飲料や製パン等の多様な用途に利用される三ヶ日みかんピューレ、サントリーと連携をした三ヶ日みかんハイボールなどがある。

対応方針（案）

- (1) 評価結果
- ・事業効果は十分に発現しており、改善措置の必要はない。
 - ・畑地かんがい、農道、排水路などの整備により、省力化、品質の向上、担い手の育成・集積が進んだ結果「三ヶ日みかん」ブランドの産地の強化に寄与している。
- (2) 今後の課題等
- ・産地の競争力強化に向け、担い手農家が地域における営農の大部分を担うべく、農地中間管理機構等を積極的に活用し、更なる農地集積と営農コストの縮減を図る必要がある。
 - ・きめ細かな水管理を可能とするマルチドリップかんがいを導入した、より高品質なみかん作りが必要である。
 - ・傾斜地の園内道路整備や部分的な区画整理等、きめ細かな整備が求められている。
 - ・本地域が持つ交通資源（東名高速道路、新東名高速道路）と地域資源（奥浜名湖）を有効活用し、交流を進めるなど、積極的な需要拡大が必要である。
- (3) 同種事業への反映等
- ・本事業では、産地・地域が求める営農を検討し必要な整備を実施している。今後、同種工事においても、関係機関等を含め営農について協議し、地域の特色を踏まえつつ効率的な整備を推進していく。

畑地帯総合整備事業(担い手育成型)三ヶ日中部地区 位置図

1/25,000

県内位置図



愛知県

東名高速道路

三ヶ日JCT

国道301号

三ヶ日中部地区

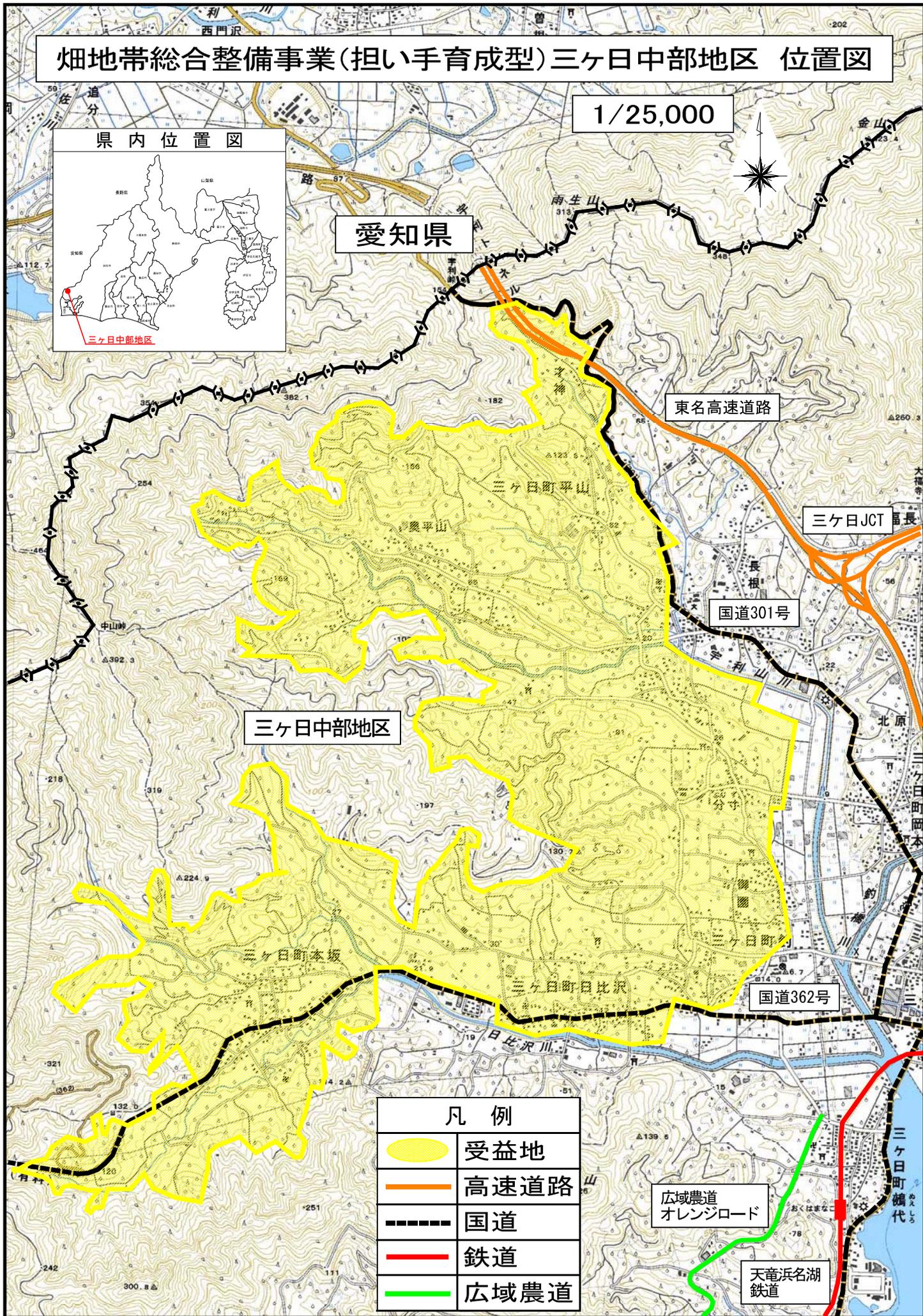
国道362号

凡例

	受益地
	高速道路
	国道
	鉄道
	広域農道

広域農道
オレンジロード

天竜浜名湖
鉄道



●事業効果の発現状況

<地区全景>



<畑地かんがい工>
事業実施前

かん水：降雨に頼る



防除：河川から取水し人力で散布



事業実施後

給水栓からかん水が可能



スプリンクラーで散布



●事業効果の発現状況

<農道工>
事業実施前

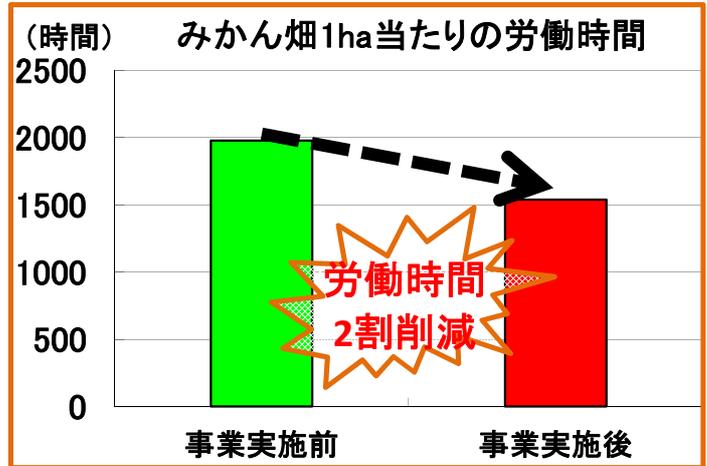


事業実施後



駐停車やすれ違いが可能に

<排水路工>
事業実施後



「みかんの増収、品質向上」

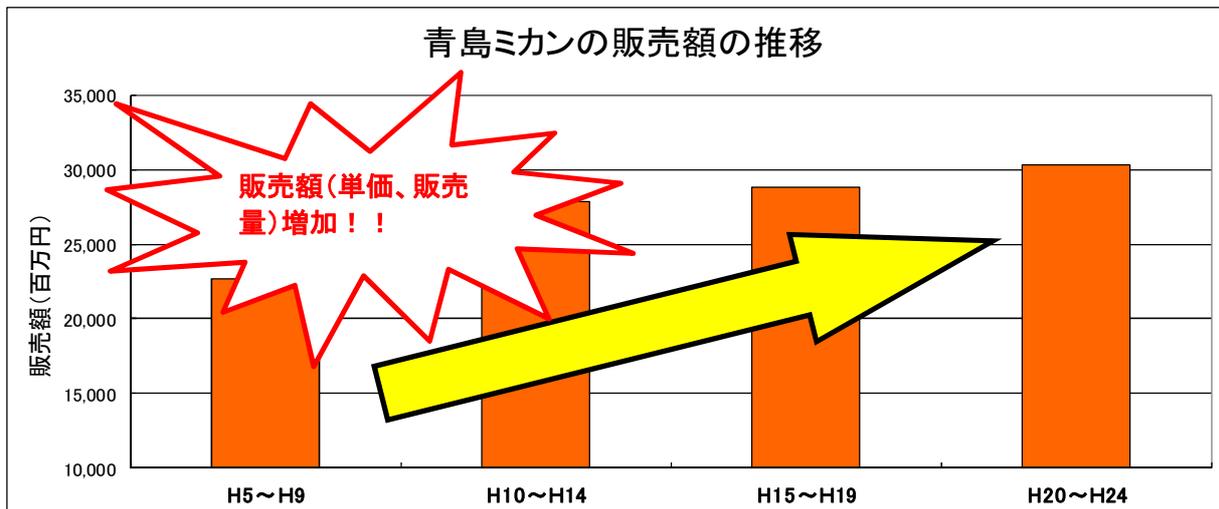
青島ミカエースの単価向上
H5 : 420円/kg
H25 : 565円/kg

1.3倍!!



糖度13度以上の『ミカエース』
(三ヶ日みかんの最上級品)

畑かん施設が整備され品質の高いみかん栽培が可能に!!

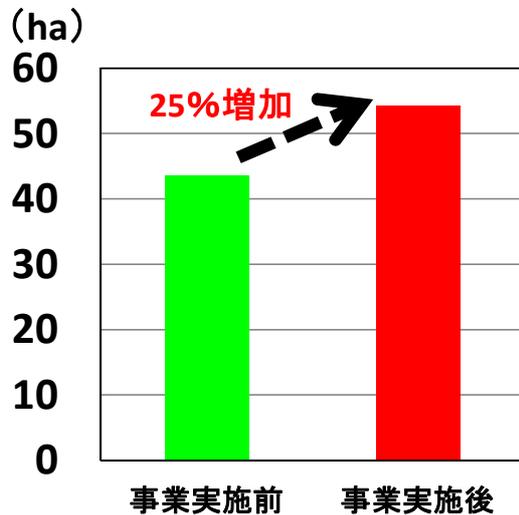


●事業実施による環境の変化

ビジネス経営体・担い手農家の育成

マルチドリップかんがいの普及促進

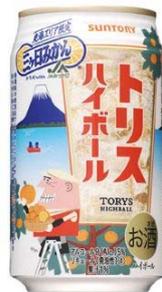
担い手農家の地区内経営面積



みかんの成熟期（秋以降）にマルチシートで雨水を遮断し、シート下に布設したドリップチューブで必要最低限の水分を与えることで、より糖度の高いみかんを栽培する。

●社会経済情勢等の変化

光センサーにより選果



サントリー
三ヶ日みかん
ハイボール

ピュアレスト蜜柑

山崎パン

6次産業化



ポテトチップス



みかんゼリー



氷美柑

農商工連携により開発された商品